Ⅰ　総合的な学習

1　研究主題

「総合的な学習の時間」の評価に関する研究

〈内容の要約〉

小・中学校では，「総合的な学習の時間」の目標の設定から評価の観点等を活動案に位置付けるまでの一連の過程を示すことができた。具体的には，評価の観点や評価規準の作成の仕方や留意点，活動案への位置付け方などを示している。

高等学校では，評価の観点や評価規準及び評価の資料を集める方策を示すことができた。また，生徒が身に付けた力を観察法，面接法，ポートフォリオで評価していく際の考え方も示している。

〈キーワード〉

(1)総合的な学習の評価　(2)評価の観点　(3)評価規準　(4)カリキュラム評価　(5)ポートフォリオ評価

2　主題設定の理由

本教育センターでは平成11，12年度に「総合的な学習の時間」の学習課題の設定や単元の構成の仕方，カリキュラムの開発等について研究を重ねてきた。その研究成果を踏まえ，本年度から２か年計画で，当面の課題となっている評価に焦点を当てて取り組むことにした。

「総合的な学習の時間」の評価は，これまで行ってきた各教科の評価とは大きく異なる部分がある。各教科は，学習指導要領に目標や内容が示されており，評価の基となるものがあるが，「総合的な学習の時間」においては，目標や内容は示されていない。このことから，学校独自のカリキュラムの作成が求められる。学校力を基盤にしたカリキュラムの開発と実践のためには，「総合的な学習の時間」の目標の設定から評価の観点等を作成するまでの一連の過程をつくり上げていくことと，指導計画や指導方法等をよりよいものに改善していくためのカリキュラム評価を行うことが，特に重要であると考える。

評価の研究の１年次である今年度は，評価の一連の過程をどのようにつくり上げていくのかということに絞り，教育課程審議会答申や文部科学省通知等を踏まえ，評価の観点等の設定や評価の方法など具体的な評価の考え方・進め方を探ることをねらいとして，研究に取り組むことにした。

3　研究の目標

「総合的な学習の時間」の円滑な実施のために，目標の設定から学習評価までの一連の評価の考え方や進め方を探る。

4　研究の内容と方法

(1)　研究の内容

ア　「総合的な学習の時間」の評価の考え方や進め方について，理論研究を行う。

イ　「総合的な学習の時間」の評価の考え方を明確にした実践研究を行う。

(2)　研究の方法

ア　目標の設定から評価の観点等の作成までの一連の評価の進め方を検討する。

イ　評価の観点や評価規準を位置付けた学習場面の設定の仕方を検討する。

5　研究の実際（小・中学校と高等学校に分かれて研究を行ったので，小学校・中学校編と高等学校編に分けて，次頁より掲載する）

【「総合的な学習の時間」の評価の考え方・進め方（小学校・中学校編）】

(1)　「総合的な学習の時間」における評価の基本的な考え方

評価には，教師が学校でつくった指導計画や学習内容を評価するカリキュラム評価，教師が子どもの伸びを評価する学習評価，子どもが自分自身の活動を評価する自己評価等があり，どれも重要な役割を担っている。特に「総合的な学習の時間」の目標や内容の設定が各学校に委ねられている以上，この３つの評価を責任をもって進めていくことが必要不可欠である。そのために，最も重要なことは，自校の子どもや地域の実態等に合った「総合的な学習の時間」の目標を設定することである。このことが，カリキュラム評価においては，指導計画や学習内容等の設定や見直しの根幹になり，学習評価においては，指導目標や評価の観点，評価規準の設定の根幹になる。いずれにしても，目標の設定から評価の観点等を作成するまでの一連の過程を全職員で共通理解の下に進めていくことが大切になる。

特に，カリキュラム評価については，これまで以上に重要になってくると考える。学校力を基盤にした独自のカリキュラムを編成するということは，そのカリキュラムで本当によいのかどうかを評価することにおいても，自校で責任をもって行うしか方法がないのである。したがって，計画カリキュラムと実施カリキュラムを基に「学習したことでどのような力が身に付いたか」「この指導計画で子どもたち一人一人が主体的に学びを深めていくことができたのか」など各学校で評価の視点を定めて十分に検討していくことが重要である（カリキュラム評価については，本教育センター研究紀要第25集別冊（平成13年3月30日発行）Ｐ17～20参照）。

学習評価で特に重要なのは，個人内評価を原則としてよい点や進歩の状況等を踏まえて評価すること，評価の観点を定めて行うことであると考える。

「総合的な学習の時間」の評価については，教育課程審議会の答申「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」(平成12年12月)において，以下のように示されている。

> ア（前略）。このような趣旨から，学習の状況や成果などについて，児童生徒のよい点，学習に対する意欲や態度，進歩の状況などを踏まえて評価することが適当であり，数値的な評価をすることは適当ではない。
> イ（前略），評価に当たっては，各教科の学習の評価と同様，観点別学習状況の評価を基本とすることが必要である。（中略），各学校において具体的な目標，内容を定めて指導を行うことが必要である。そして，その目標，内容に基づき，観点を定めて評価を行うことが必要である。　（下線は本研究委員会による）

(2)　「総合的な学習の時間」の評価の具体的な進め方

目標の設定から評価の観点等を活動案に位置付けるまでの一連の過程を下の図１のように考えた。

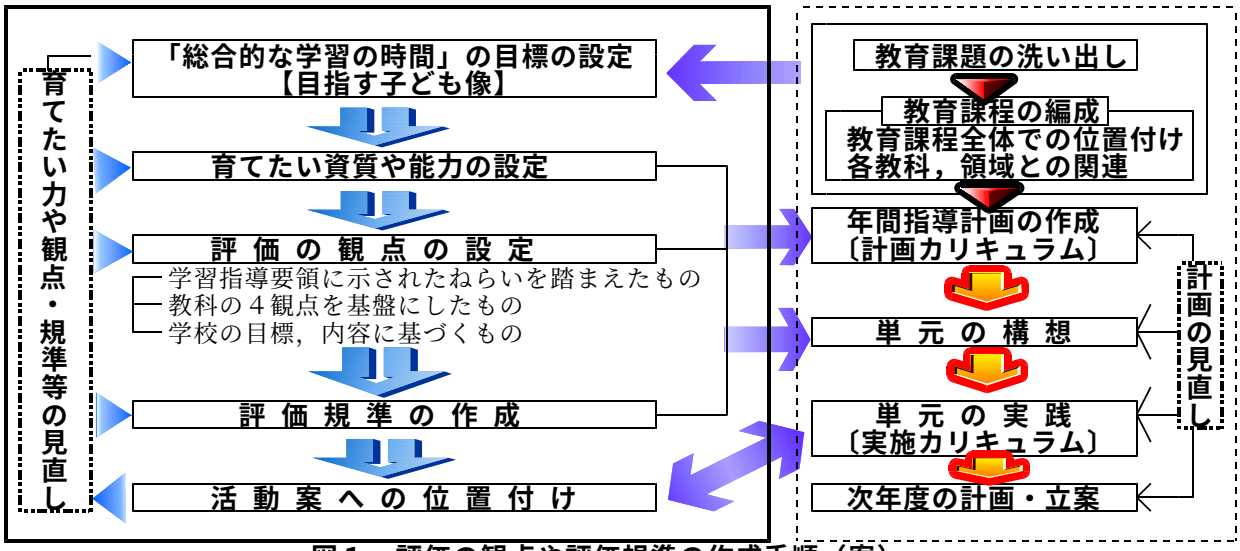

図１　評価の観点や評価規準の作成手順（案）

ア　「総合的な学習の時間」の目標の設定―ここから評価の第一歩が始まる―

自校の教育課題を洗い出し，明確にすることにより，その課題を学校の教育活動全体（各教科，道徳，特別活動，「総合的な学習の時間」）で解決していくための教育課程編成の方針が決まる。そして，その方針に応じて，各教科，道徳，特別活動の重点目標や「総合的な学習の時間」の目標（以下目指す子ども像と表記する）を設定することになる。このことにより，各教科，道徳，特別活動，「総合的な学習の時間」で，それぞれが担う役割が明らかになる。例えば，これまで特別活動で行っていたことをそのまま「総合的な学習の時間」で行ったり，特別活動でねらうようなことを観点の１つに設定したりすることを防ぐためにも，教育課程全体での位置付けが重要になると考える。

目指す子ども像は，学習指導要領に示されている「総合的な学習の時間」のねらいの下，自校の教育課題を解決するために，この時間でどのような子どもを目指していくかという視点で，全職員で十分話合いをして決定することが重要である。すでに，目指す子ども像を設定している学校は，右の視点で吟味・検討・修正をすることが必要であると考える。

目指す子ども像の設定及び見直しの視点

① 学校の教育目標に迫るためのものになっているか
② 「総合的な学習の時間」のねらいに沿っているか
③ 子どもの実態から考えられたものか
④ 地域の特色や保護者の願いを踏まえたものか
⑤ 教育課程全体での位置付けがなされているか

イ　育てたい資質や能力の設定―目指す子ども像に迫るために―

目指す子ども像が決まれば，次に，どのような力が身に付けば，目指す子ども像に迫れるのかという点について検討することが重要である。目指す子ども像はある程度幅広く設定しても，育てたい資質や能力は具体的に設定することが大切になる。そうすることで，授業を通してどのような力を付けさせるべきなのかが明確になる。

例えば，目指す子ども像が「主体的に判断して活動し，よりよく解決する子ども」であるならば，学習場面においてどのような資質や能力が身に付けば，主体的に判断して活動し，解決できるようになるのかを考える。そして，「自分で課題を見付ける力」「計画を立てる力」「自分の活動を振り返る力」等，より具体的なものが設定されることになる。

育てたい資質や能力は，自校の子どもや地域の実態等から考えられたものでなければならない。その意味で，職員が共通理解をし，常に念頭に置いて指導に当たること，また，校内研究会等で機会あるごとに，吟味・検討・修正を行うことが大切である。

ウ　評価の観点の作成―どのタイプで設定するか―

自校で育てたい資質や能力が明確になれば，次に評価の観点を設定することになる。ここで問題になることは，どのような手順で，どんな観点を設定したらよいかということである。このことについて，教育課程審議会答申(平成12年12月)において次のように示されている。

> 「観点」については，各学校において，指導の目標や内容に基づいて定めることとなるが，例えば，学習指導要領に定められた「総合的な学習の時間」のねらいを踏まえ，「課題設定の能力」「問題解決の能力」「学び方，ものの考え方」「学習への主体的，創造的な態度」「自己の生き方」というような観点を定めたり，教科との関連を明確にして，「学習活動への関心・意欲・態度」「総合的な思考・判断」「学習活動にかかわる技能・表現」「知識を応用し総合する能力」などの観点を定めたり，あるいは，各学校の定める目標，内容に基づき，例えば，「コミュニケーション能力」「情報活用能力」などの観点を定めたりすることなどが考えられる。（下線は本研究委員会による）

このことを整理すると，次の３つのタイプが示されていることが分かる。

観点づくりの３つのタイプ

ア　学習指導要領に示されたねらいを踏まえたもの
イ　教科の４観点を基盤にしたもの
ウ　学校で定めた「総合的な学習の時間」の目標，内容に基づくもの

これは文字どおり例示であり，自校の「総合的な学習の時間」の目標や内容と照らし合わせることをせずに，観点の具体的例示をそのまま自校の観点として設定することは，「総合的な学習の時間」の趣旨からずれてしまうことになる。前頁の答申にも示されているように，いずれも目指す子ども像や育てたい資質や能力に基づいて設定することが大前提であり，観点づくりは各学校に委ねられている。とは言え，何もないところから観点づくりをしようとすると「何からどのように進めていけばよいか分からない」といった状況にも陥りかねない。そうならないように，観点作成の際の参考となるように示されたものと考えるべきであろう。そこで，この３つのタイプのいずれかを参考にして作成をする場合に，どのように進めていくべきか，タイプごとにそのポイントと留意点をまとめてみた。

(ｱ)　学習指導要領に示されたねらいを踏まえた作成のポイントと留意点

学習指導要領 に記述されているねらいは，次のとおりである。

(1)　自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，よりよく問題を解決する資質や能力を育てること
(2)　学び方やものの考え方を身に付け，問題の解決や探究活動に主体的，創造的に取り組む態度を育て，自己の生き方を考えることができるようにすること

この２つのねらいにもう一度立ち返り，ねらいを構成している要素にはどんなものがあるのか再確認する必要がある。例えば，右のような要素が考えられる。次に，自校の目指す子ども像と照らし合わせ，「自校の子どもたちにとって特にどの力を身に付けさせたいのか」という視点で吟味して絞り込み，観点を設定することになる。この手順を踏まずに，前頁の答申の具体例からそのまま観点を設定すると，目指す子ども像からずれてしまう危険性がある。

ねらいの構成要素
① 自ら課題を見付ける力
② 主体的に判断する能力
③ よりよく問題を解決する資質や能力
④ 学び方やものの考え方
⑤ 主体的，創造的に取り組む態度
⑥ 自己の生き方を考える力

学習指導要領に示されたねらいを踏まえた設定であるから大枠では同じような観点ができると考えられるが，目指す子ども像や育てたい資質や能力からどこに重点を置くかで，図２のように，若干変わってくる。

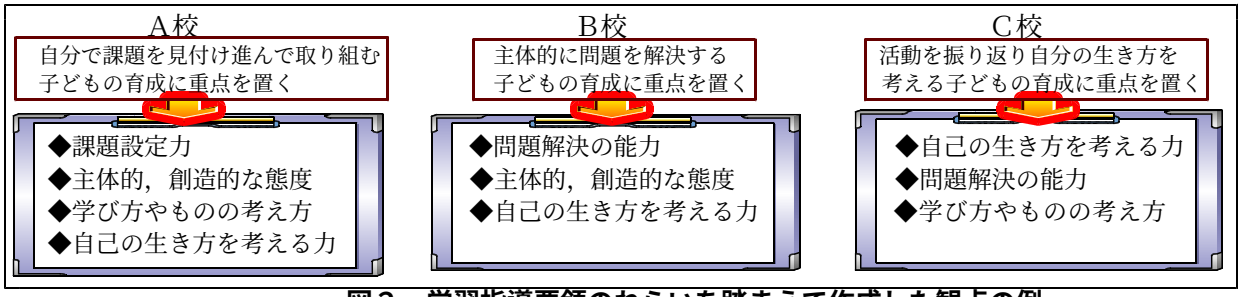

図２　学習指導要領のねらいを踏まえて作成した観点の例

ねらいの構成要素の①～⑤は，問題解決学習で重視されていることであるが，⑥の「自己の生き方を考える力」は，「学ぶ」ことと「生きる」ことを結び付ける学習活動の大切さを意味しているものである。その意味からも，「自己の生き方を考える力」は，特に，重視すべき要素であると考える。

図３は，大坪小学校の観点作成の過程を表したものである。

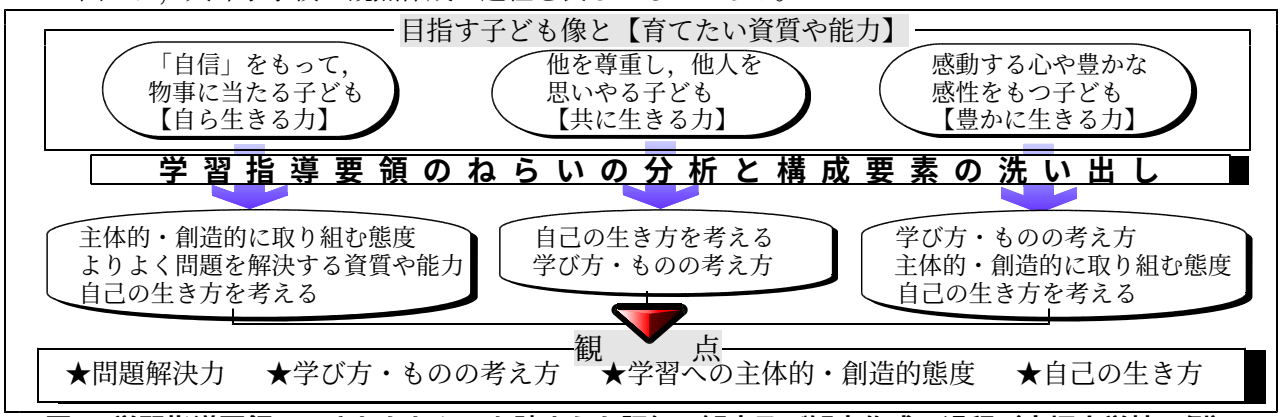

図３　学習指導要領に示されたねらいを踏まえた評価の観点及び観点作成の過程（大坪小学校の例）

(ｲ)　教科の４観点を基盤にした作成のポイントと留意点

これは，教科の観点と同様，「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の４つの観点に基づく設定の仕方であり，この４観点が学習指導要領の目指す学力の基本的な構成要素であるという考え方に基づいている。

「総合的な学習の時間」においては，各教科とは異なり，学習指導要領には具体的な目標や内容は示されておらず各学校に委ねられている。したがって，目指す子ども像と，それに迫るための内容が設定されてはじめて，この４観点での評価が価値あるものとなる。それが示されていないところで，例えば「技能・表現」という観点で評価しようとしても，何を評価しようとするのかが分からないといった状況になるだろう。図４は城西中学校の例であるが，１つの方法として，育てたい資質や能力をより詳しく分析し，４観点に振り分けるという方法が考えられる。このような過程をたどれば，「技能・表現」は「情報を活用する力」「表現する力」となり，何を評価するのかが明確になる。ほかにも，目指す子ども像に迫るための内容を吟味しカリキュラムを作成して，それを基に４観点で評価をしていくといった方法も考えられる。いずれも，目指す子ども像や育てたい資質や能力の設定が極めて重要である。

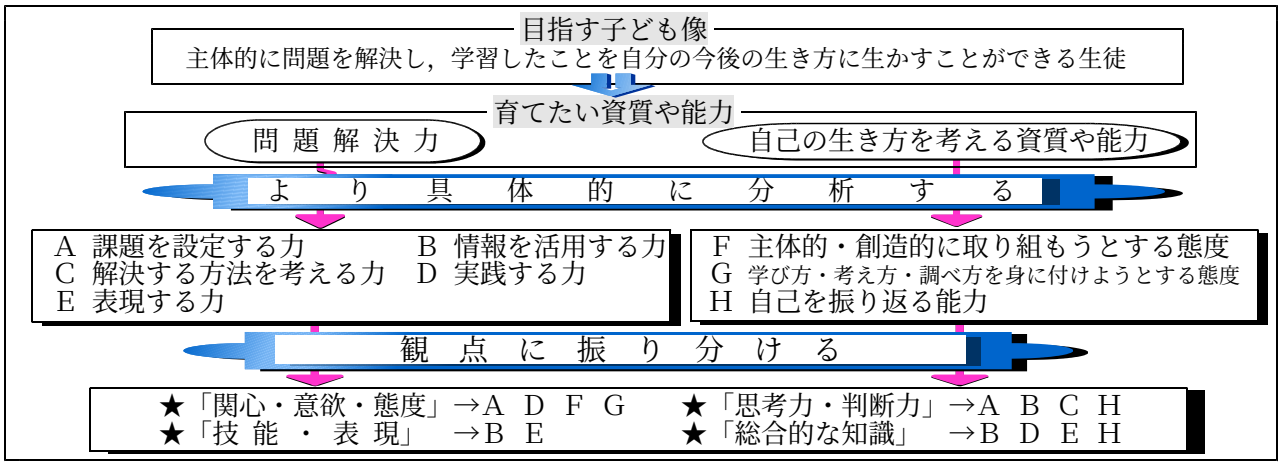

図４　教科の４観点を基盤にした評価の観点及び観点作成の過程（城西中学校の例）

(ｳ)　学校で定めた「総合的な学習の時間」の目標，内容に基づく作成のポイントと留意点

これは，学校の目標や内容に基づいて，前述した(ｱ)や(ｲ)以外の方法を用いて観点を定めるものであり，育てたい資質や能力からそのまま観点を設定したり，分かりやすいように短い文言に変えて設定したりすることが考えられる。最もシンプルで分かりやすい方法であるが，育てたい資質や能力が十分に検討されていないと，一面的で妥当性を欠く観点になるおそれがある。(ｱ)や(ｲ)の場合も同様であるが，この場合は特に，育てたい資質や能力を設定するときに「総合的な学習の時間」のねらいを踏まえて十分に吟味し，実践を通して常に検討し，必要に応じて修正を加えていくことが大切になる。

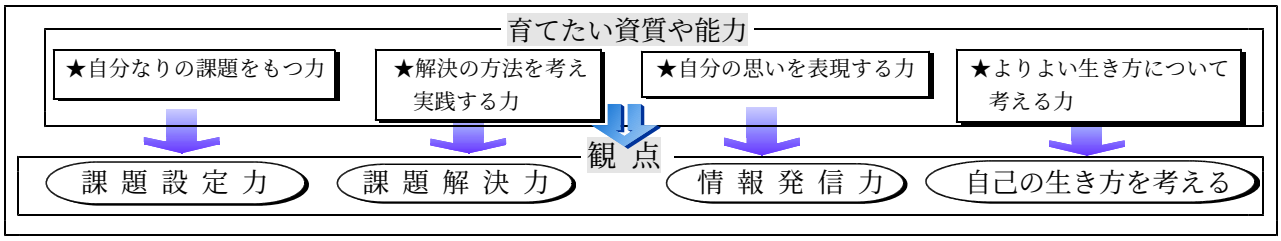

図５　学校で定めた「総合的な学習の時間」の目標，内容に基づく評価の観点及び観点作成の過程（鹿島小学校の例）

エ　評価規準の作成

評価規準とは，評価の観点をより具体化して，どのような資質や能力を育てたいのかを明確にしたものであり，何を評価するのかという評価のよりどころとなるものである。これには，学校全体でどのような力を身に付けさせるのかを示した学校の評価規準や，単元レベルにおろし，学習場面や内容を想定して設定した単元の評価規準などが考えられる。図６は，川登中学校の評価規準及び単元の評価規準の例である。

評価の観点	学校の評価規準（一部抜粋）
課題設定力	・地域の人との活動を通して，自分の生き方を考えることができるような必要性のある課題を設定し，学習計画を立てることができる。
判断力（情報活用力）	・課題解決のために収集した資料を自分の目的に応じて選択，処理することができる。

単元レベルにおろす　【３年 単元「21 世紀の住みよい川登の町づくりを考えよう」】

評価の観点	単元の評価規準（一部抜粋）
課題設定力	・自分の思いやアイディアを生かし，具体的な町づくりの課題を設定したり，順序を考えた学習計画を立てたりすることができる。
判断力（情報活用力）	・グループで町づくりの方針を考え，それぞれの思いをモデルや予想図などを用いて，分かりやすくまとめることができる。

図６　学校の評価規準及び単元の評価規準（川登中学校の例）

オ　活動案への位置付け－「何を」「どのように」評価するのかを明確にする－

評価の観点と評価規準が設定されれば，いよいよ単元を構想し活動案を作成することになる。ここで大切なのは，どの学習場面で「何を評価するのか」と「どのように評価するのか」を想定しておくことである。「何を」（評価の観点と評価規準）が決まっていても，「どの場面で」「どのように」（いつ，だれが，どんな方法で）が不明確であれば，実際に評価を進めていくことは難しい。

活動案の形式に関する提案

①評価の観点と学校の評価規準から，単元の評価規準を設定し，活動案の中に位置付ける。
②どの活動場面で「何を」評価するのかが分かるようにするため，指導計画【単元の構想】の中に，評価の観点を位置付ける。
③「何を」「どのように」評価するのかが分かるようにするため，本時の活動の中に，評価の観点と評価方法を位置付ける。

カ　評価の観点や評価規準の見直し

「総合的な学習の時間」の評価は，子ども一人一人の生き方につながるものでなければならない。そのためには，子ども一人一人を大切するという視点で，個人の主体的・自立的な活動の伸びを見取ることが重要である。したがって，実践を通して，機会あるごとに，評価の観点や評価規準に立ち返り，検討や見直しを重ねることが極めて重要であると考える。そのことが，カリキュラムや指導方法をよりよいものにしていくことにもつながる。

◆この評価の観点や学校の評価規準で，目指す子ども像に迫ることができるのか
◆学校や単元の評価規準は，子ども一人一人の伸びを見るために，使いやすいものか
◆単元の内容や手立ては，評価の観点や単元の評価規準を達成するのに適当か

カリキュラムや指導方法等の改善

図７　評価の観点や評価規準の見直しの視点（例）

キ　指導要録・通知表の記入の仕方

文部科学省から「指導要録の改善等についての通知」が出され，指導要録については「総合的な学習の時間」の欄が加わることになった。表１に示したように，「学習活動」を記述した上で，指導の目標や内容に基づいた「観点」を記載し，「評価」の欄に「観点」に沿ってどのような力が身に付いたかを文章で記述することになる。表１は，一つの例として単元や観点の●印についてのみ評価を示しているが，どのような形で記述していくかは，学校で検討し共通理解を図るべきものである。**（※本書Ｐ10，14，18，22参照）**

表１　指導要録の記入例（一部）

学年	学習活動	観点	評価
1	●地域の環境を考える 私たちの街を見つめよう	●主体的・創造的な態度 ○問題追究力 ○自己の生き方	環境問題に取り組む人と出会い，自らも実践しようと水質検査の結果を基に，身近な川の汚れについて自主的に調べた。

通知表については，「観点（学習のねらい）」と「学習の状況」とに分けて記載したり，「学習活動」「学習のねらい」「学習の状況」の欄を作って記載したりするなどの形式が考えられる。いずれにしても，子どもの学習状況のよい点や向上した点を中心に，子どもと保護者に分かりやすく伝えることが大切である。

(3)　実践例１（評価の観点―学習指導要領に示されたねらいを踏まえた作成―）

伊万里市立大坪小学校の取組

目指す子ども像

★「自信」をもって，物事に当たる子ども
★他を尊重し，他人を思いやる子ども
★感動する心や豊かな感性をもつ子ども

育てたい資質や能力

○自ら生きる力
○共に生きる力
○豊かに生きる力

評価の観点

① 問題解決力
② 学び方・ものの考え方
③ 学習への主体的・創造的態度
④ 自己の生き方

学校の評価規準（一部抜粋）

観点	学校の評価規準【高学年】
①問題解決力	◆興味・関心や疑問を基に，追究したい内容を決めることができる。 ◆課題解決のために，見通しをもった追究計画を立てることができる。 ◆目的意識をもって，計画的に課題を追究することができる。 ◆目的を確認しながら，計画を修正することができる。 ◆目的に合った効果的な方法で表現することができる。 ◆目的に合わせて，自分なりの視点で活動を振り返ることができる。
②学び方・ものの考え方	◆目的に応じて、情報を集める手段を選ぶことができる。 ◆自分に必要な情報を集めることができる。 ◆集めた情報を項目別に整理することができる。 ◆自分の思いが効果的に伝わる表現手段を選ぶことができる。 ◆相手意識をもって分かりやすく表現することができる。 ◆情報を集め，多角的に判断することができる。
③学習への主体的・創造的態度	◆環境や人など様々な事象に，目的意識をもって進んでかかわり，課題を決めようとする。 ◆目的意識をもって，粘り強く課題に取り組もうとする。 ◆課題を解決するために，目的に合った必要な方法を考えようとする。 ◆調べたことや明らかになったことなどを適切な方法を選んで，工夫して表現しようとする。
④自己の生き方	◆自分のよさを意識しながら，やりたいことに進んで取り組もうとする。 ◆目的に合わせて，自分の視点で活動を振り返ることができる。 ◆人の考えや行動を理解し，自分の活動や生活に生かそうとする。

単元名　第５学年　「今，自分にできること」－地域の人とのふれあいの中で－

単元の評価規準

観点	単元の評価規準
①問題解決力	○体験活動や交流活動を通して，ボランティアに対する興味・関心を深め，自分にできる活動を決定することができる。 ○自分の疑問点を解決するための計画を立てることができる。 ○交流会の準備やイベントの企画など，目的意識をもって活動することができる。
②学び方・ものの考え方	○ボランティア活動などに関する情報を項目別に整理し，分かりやすく表現することができる。 ○交流会や中間報告会などを通して，自分に必要な情報を集めることができる。 ○中間報告会などを基に，計画を見直したり，内容を修正したりすることができる。
③学習への主体的・創造的態度	○ボランティア活動をする人や様々な立場の人と進んでかかわろうとする。 ○自己決定した活動に目的意識をもって粘り強く取り組み，よりよい解決を工夫しようとする。 ○ボランティア活動の実践を生かし，自分にできることを考えようとする。
④自己の生き方	○ボランティア活動をする人や様々な立場の人の考え方や活動を理解し，自分の活動に生かそうとする。 ○ボランティア活動や中間報告会を振り返り，自分のよいところを考えることができる。 ○日常生活の中で実践できるボランティア活動について考え，取り組もうとする。

単元の構想【全３９時間】

※評価の観点の欄の番号はＰ８の評価の観点を示す

過程	学　習　活　動	評価の観点
ふれる	**１　ボランティア活動って何だろう。（１１時間）** (1)　グループに分かれて，大坪町内で行なわれているボランティア活動へ参加する。 ・市民図書館の清掃　・独居老人との食事作り ・白野川の花壇作り　・ベルマーク整理 ・老人クラブとのグランドゴルフ活動　など 写真１　独居老人との食事作り	③④
	(2)　体験したボランティア活動についての報告を行い，疑問点を出し合う。	①②
	(3)　疑問点を解決するための計画を立てる。 写真２　報告会の様子	①
	(4)　前回と同じボランティア活動について，追体験を行ったり，取材をしたりする。	②③
	(5)　分かったことや考えたことを「教えてよコーナー」に掲示して，報告する。	②
つかむ	**２　ボランティア活動について考えよう。（７時間）** (1)　ボランティア活動や体験活動をして分からなかったことについて，ボランティアコーディネーターから答えてもらったり，話を聞いて疑問に思ったことやもっと知りたいことについて答えてもらったりするなどして，交流をする。 写真３　ボランティア活動の計画を立てる児童	③④
	(2)　これまでの学習活動を振り返って，自分にできそうなボランティア活動を考える。	①③
深める	**３　自分にもできるボランティア活動を実践してみよう。（１４時間）** (1)　実践してみたいボランティア活動に必要な知識や技能を身に付けたり，各種ボランティア団体や社会福祉協議会に問い合わせたりしながら活動を深める。 ・ごみのリサイクル活動　・ベルマークの収集活動 ・図書館の清掃活動　・視覚障害者との交流活動 ・車いすを贈る活動　・募金を集めて贈る活動 ・手話を使っての交流活動　・お年寄りとの交流活動　など 写真４　川の護岸作業を手伝う児童	①②③
	(2)　指導者と話し合うなどして，交流会へ向けての準備を行う。	①②
	(3)　実践しているボランティア活動をよりよい活動にするために，友達と話し合ったり，地域の方からアドバイスをいただいたりするなどして交流する。（本時）	②③
	(4)　交流したことを生かし，更にボランティア活動を行う。	①②④
	(5)　実践している活動についての中間報告会，及び「お助け交流会」を行うなどして情報を交換する。	②③④
	(6)　中間報告会などを基に，更に実践活動を深めたり，内容を修正したりする。	①②
まとめる 広げる	**４　ボランティア活動の実践についてまとめよう。（７時間）** (1)　実践してきたボランティア活動についてまとめ，ボランティア活動の実践を生かしたイベントを企画し，それへ向けての活動を行う。	①②
	(2)　ボランティア活動の実践を生かしたイベントを行う。	①③
	(3)　日常生活の中で実践できるボランティア活動について考え，取り組む。	①③④

本時の活動と評価の工夫

◆　本時のねらい

・よりよい活動にするために，アドバイスを提示したり，アイデアを出し合ったりする。（②学び方・ものの考え方）

・人と進んでかかわりながら，自他の活動に生かすために，アドバイスを得たり，自分の考えを積極的に出したりする。（③学習への主体的・創造的態度）

・交流会などで得たアドバイスやアイデアなどから，目的に合う内容や方法を考え，自分の取組に生かそうとする。（③学習への主体的・創造的態度）

学　習　活　動	評価の観点と【方法】
1　本時の学習活動を確認する。 今後の活動に生かすために，アドバイスをもらったり，アイデアを出し合ったりしよう。	
2　各グループに分かれて，「交流会」を行う。 A　これまでの活動で困っている児童（グループ）が，指導者の支援を受けながら自分のボランティア活動を練り直す。 **写真５　指導者とともに活動する様子**	③【行動観察，対話法，事後の面談】
B　同じテーマ同士のグループを編成し問題となっている点を地域の方と交流しながら修正・改善する。 C　同じテーマ同士のグループを編成し，問題となっている点を自分たちの力で修正・改善する。 **写真６　お互いに考えを出し合う様子**	②【事前，事後の面談】
D　順調に活動を進めている児童同士が，自分たちの力で，更によりよい取組を考える。 3　活動を振り返る ・次の活動への見通しをもつために，本時の活動を振り返り，活動で得たアドバイスや意見などを整理したり，計画を修正したりする。 **写真７　自己評価を行う様子**	③【自己評価カード，事後の面談】

○　**人と進んでかかわり，自分の活動に生かすためのアドバイスを得ようとしているか。**
また，自分の考えを積極的に出そうとしているか。（A・B・Cの活動グループ）
［手立て］
つぶやきや発言，態度などについて行動観察を行う中で，子どもポートフォリオを基に，話合いの内容に適した事項を指摘するなどして支援を行った。行動観察があいまいであった児童に対しては，事後に面談を行い，「だれからどのようなアドバイスを得ようとしていたのか」「どのような考えを出したのか」などを尋ねて確かめた。

○　**よりよい活動にするために，アドバイスを提示したり，アイデアを出し合ったりしているか。**（Dの活動グループ）
［手立て］
事前に子どもたちの活動展開を予想し，支援カードを与え，話合いが進まないときに活用するようにさせた。また，事後に子どもポートフォリオと教師ポートフォリオを基に面談を行った。

○　**交流会で得た情報（アドバイス，意見等）から，目的に合う（活動が進む，広がる）内容や方法を考え，自分の取組に生かそうとしているか。**（A～Dの活動グループすべて）
［手立て］
子どもポートフォリオと教師ポートフォリオを基に，個人又はグループごとの活動内容に沿った自己評価の視点を設けた。
自己評価があいまいである児童については，活動後に面談を行い，自己評価について考えや思いを聞いたり，子どもポートフォリオを活用して，評価の観点に沿う考えを導き出したりした。

評価の方法について

単元を通して，ポートフォリオの機能を生かした評価活動を中心に，子どものよさを見付けながら，子ども一人一人の活動が深まるよう支援を行う。

◎　子どもポートフォリオ…ファイル（学習計画表や学習カード，情報メモ，他者評価などの資料をつづったもの）や記録ノートで，疑問や願い，感じたこと，まとめたことに対する断続的な自己評価を行う。

◎　教師ポートフォリオ…学習意欲促進の評価ととらえ，学習支援のための記録（「評価の観点を押さえた記録」「子どもの学習の様子と指導の記録」「子どものよさを見つめる記録」「つぶやきメモ」など）を行う。

◎　面談…子どもポートフォリオと教師ポートフォリオを基に，評価の観点を共有しながら，児童一人一人の活動を深めることができるように支援を行う。

考　察

ア　評価の観点や評価規準について

○　評価規準を設定することにより，「何を評価するのか」という部分が明確になった。そのことにより，指導や支援がしやすくなり，児童の活動意欲も向上した。

○　単元の構想や本時の活動の中に評価の観点を位置付けることにより，単元全体を通してバランスよく評価をすることができた。

○　学習指導要領に示されたねらいを踏まえて評価の観点を作成したが，評価をするときに，「学習への主体的・創造的態度」と「自己の生き方」のどちらの観点で評価すべきかを迷ってしまうことがあった。評価の観点や評価規準は，実践を行うたびに振り返り，見直しや修正を重ね，よりよいものにしていくことが大切であると感じた。

イ　評価の手立てについて

○　事前に子どもポートフォリオと教師ポートフォリオを基に面談を行うことで，ゲストティーチャーを含めたＴＴの設定や個別指導の位置付け，対応が難しいグループへのヒントカード，個又はグループの活動に応じた自己評価カードなど，本時の活動の支援へとつながった。

○　本時の活動後は，自己評価カードを基にして児童一人一人の取組を見取るようにした。自己評価があいまいで意味がつかめない記録をしていた児童に対しては，事前と同じように簡単な面談を行い，自己評価についての考えや思いを詳しく聞いたり，子どもポートフォリオを基に，評価の観点に沿う考えなどを導き出したりして，今後の活動の方向性を明確にさせるようにした。

○　この一連の評価活動を支えるのは，子どもポートフォリオと教師ポートフォリオである。面談を行う際は，２つのポートフォリオが生きてくる。自己評価が話合いのきっかけとなり，児童は自分のファイルを基にして，自分の活動を振り返って説明を行う。そこには，行動観察や評価カードでは見ることのできない児童の姿がある。それを肯定したり，称賛したり，場合によっては，よいところに気付かせたりすることで，自信と次の活動への活力をもたせることができる。その意味で，ポートフォリオの機能を生かして面談を行うことは，大変有効であると考える。

指導要録等の記入例

【単元の学習から考えられる記入例】

	観点②（学び方・ものの考え方）
Ｄグループの抽出児	再度，長生園へ訪問し，お年寄りを喜ばせるための活動をどのように工夫したらよいか，友達に的確に伝えたり，友達の活動がよりよいものとなるように，自分の経験や資料を基にしながら，アイデアを出したりしていた。

	観点③（学習への主体的・創造的態度）
Ａグループの抽出児	校区の地図を基に，指導者と一緒に「ごみ拾いをする場所」を選定して付せん紙を張り付けたり，活動する順に並び替えたりして，今後の活動について活動計画表にまとめることができた。自分の目標に向かって根気強く取り組んでいる。
Ｂグループの抽出児	「拾ったごみをどうするか」ということに関して行き詰まっていたが，市役所の生活環境課の方の話を聞き，よりよい解決方法を探ろうとしていた。地域の方との交流会を経て，「分別の仕方」と「ごみを減らす方法」が明らかとなり，今後の活動へ生かすための計画を練ることができると喜んでいた。
Ｄグループの抽出児	「お年寄りを喜ばせるための活動をどのように工夫するか，そのアイデアを得たい」と友達に的確に伝え，交流会で得た多くのアイデアや意見の中から，紙芝居をすることやゲームをすることなどを選択し，再訪問の計画を練ることに決めた。

(4)　実践例２（評価の観点―教科の４観点を基盤にした作成―）

佐賀市立城西中学校の取組

目指す子ども像

★主体的に問題を解決し，学習したことを自分の今後の生き方に生かすことができる生徒

育てたい資質や能力

○問題解決力

○自己の生き方を考える資質や能力

評　価　の　観　点

① 関心・意欲・態度
② 思考力・判断力
③ 技能・表現
④ 総合的な知識

学　校　の　評　価　規　準（一部抜粋）

観　　点	学　校　の　評　価　規　準
①関心・意欲・態度	◆【問題解決力】 ・主体的に課題を設定し，自分のこだわりをもって学習しようとする。 ◆【自己の生き方を考える資質や能力】 ・活動を振り返ることで自己評価を行い，自分自身の成長について考えようとする。
②思考力・判断力	◆【問題解決力】 ・自分で解決可能な課題を設定することができる。 ・収集した情報を分かりやすく整理することができる。 ・主体的に解決する自己教育力を身に付けることができる。 ・自分の学習によって得た情報から言えることを適切に判断することができる。 ◆【自己の生き方を考える資質や能力】 ・自分の学習活動を適切に振り返ることができる。
③技能・表現	◆【問題解決力】 ・様々な情報源から，最良の方法で必要な情報を収集することができる。 ・自分の考えを分かりやすく伝えることができる。 ◆【自己の生き方を考える資質や能力】 ・多くの情報から，様々な考え方があることを知り，自分の考えをもつことができる。
④総合的な知識	◆【問題解決力】 ・総合的な学習を行う中で，教科や日常生活で得られた知識を使うことができる。 ◆【自己の生き方を考える資質や能力】 ・他の考えを認め，その中で，自分の考えをもち，自分の生活に生かそうとする。

単 元 名　　第１学年　「福　祉」　ーやさしさー

単元の評価規準

観　　点	単　元　の　評　価　規　準
①関心・意欲・態度	○今まで気付かなかったことを見付け，こだわりをもって積極的に学習しようとする。
②思考力・判断力	○自分が選んだ課題を解決するためには，どのようなことを行う必要があるのかを考え，これからの活動の修正をすることができる。
③技能・表現	○詳しく調査したことや自分の言いたいことについて，自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができる。
④総合的な知識	○「福祉」で学んだことから自分にできることを考え，自分の生活に生かすことができる。

単元の構想 【全４７時間】

※評価の観点の欄の番号は，ｐ12の評価の観点を示す

過程	学　習　活　動	評価の観点
ふれる	**1　「福祉」に興味・関心をもとう。（５時間）** (1)　「福祉」とは，どんなことなのか。図書室やインターネットで調べる。 (2)　「バリアフリー」と「ノーマライゼーション」についての講話を聞く。図書室やインターネットで調べる。	①②
	2　話を聞き取る練習をしよう。（0.5時間）	②
	3　「バリアフリー」の施設を調査しよう。（２時間） (1)　街の中でどんな「バリアフリー」の施設があるか調査する。	③
見付ける	**4　障害者のある人の気持ちを少しだけでも理解しよう。（1.5時間）** (1)　車椅子体験，アイマスク体験を行う。	①②
	5　課題を設定しよう。（１時間） (1)　「福祉」－やさしさ－の学年のテーマを受けて，「障害者」「高齢者」「幼児」の中から，領域を決める。	①②
見通す	**6　学習グループを決定しよう。（１時間）** (1)　自分のやってみようと思う課題ごとに班を作る。	①②
	7　小さな課題を設定しよう。（２時間） (1)　自分たちの選んだ課題を解決するためには，どのようなことを行う必要があるのかを考え，小課題を設定する。	①②
活動する	**8　小さな課題の内容の調査を行おう。（２時間）** (1)　それぞれの小課題について，詳しく調査を行う。	②③
	9　今後の活動の発表準備をしよう。（３時間） (1)　自分たちの班で，発表原稿作りと発表の練習を行う。	①
	10　今後の活動の発表会（意見交換会）を行おう。（本時） (1)　ワークショップ形式で発表会を行い，活動内容と発表において，よい点，改良した方がよい点，感想などをカードに書いて，発表している班に提出する。	③
	11　活動計画修正を行おう。 (1)　友達からもらった意見によって，活動計画の修正と発表活動における振り返りを行う。	②
振り返る	**12　交流を行うための活動をしよう。（８時間）** (1)　活動や対象者との交流を行う時の練習をする。	③
	13　交流を行おう。（２時間） (1)　自分たちの学習した結果を基に，交流を行う。	③
	14　学習活動レポートの作成をしよう。（２時間） (1)　活動してきたことを振り返りながら，レポートを作成する。	②③
	15　他のクラスへの発表準備をしよう。（２時間） (1)　学習活動のレポートを基に，発表会の準備を行う。	①
	16　発表会の練習（学級内，班内）をしよう。（１時間）	③④
	17　活動内容の発表会を行おう。（学年）（２時間） (1)　ワークショップ形式で発表会を行い，よい点，改良した方がよい点，感想などをカードに書いて発表している班に提出する。	③④
行動する	**18　深まった課題を設定しよう。（２時間）** (1)　「交流」によって，問題点となったところ，更に工夫したい点を考えて小課題を設定し，どのようにして解決していくかの解決方法の計画を立てる。	①②
	19　深まった課題の小さな課題を解決しよう。（２時間）	②④
	20　「交流」のための練習をしよう。（２時間） (1)　改良した点を生かしての「交流」の練習をする。	③④
	21　再び「交流」を行おう。（１時間）	③
	22　学習内容をまとめよう。（２時間） (1)　学習してきたことをまとめながら，自分の活動や心の変化の振り返りを行う。さらに，次の時代をつくっていく子どもとの「共生」について考える。	②③
	23　自分たちのできることを考え，行動を起こしてみよう。（２時間）	①②④

本時の活動と評価の工夫

◆　本時のねらい

- 発表会で，自分の気付きや感想を相手に分かりやすく伝えることができる。（③技能・表現）
- 他者のアドバイスを取り入れ，計画を修正することができる。（②思考力・判断力）
- 本時の学習を振り返り，次の学習の見通しをもつことができる。（②思考力・判断力）

学　習　活　動	評価の観点と【方法】
1　本時の活動の確認 (1) 本時の活動の確認をする。 (2) 学習日記に記入する。 (3) おもちゃ制作の計画発表会の自己評価表を書く。 2　発表会 (1) ワークショップ形式での発表会（発表５分，質問１分）を行う。 (2) 聞いている生徒は，発表している班の発表方法と発表内容について評価を行い，発表後，直ちに評価用紙を発表した班に提出する。 3　学習活動の振り返り (1) 発表内容と発表方法に関しての意見カードを見ながら，学習活動の振り返りを行う。振り返りによって，分かったことや今後の活動の変更点をまとめ用のプリントに記入し，クラス全員に発表を行う。 4　本時の学習の振り返りと次時の見通しをもつ。 (1) 学習日記を記入する。	③【生徒のチェックリスト，教師用ポートフォリオ】 ②【友達からもらった意見を集約するまとめ用のプリント】 ②【学習日記】

○　発表会で，相手に分かりやすく伝えることができたか。

［手立て］

- 自分たちの発表内容と発表方法について，自己評価を行った。聞いている生徒からの評価と自己評価を比較した。
  発表しているときに聞き手の生徒がチェックリストを使用し，相互評価を行った。
- 教師も生徒の発表を評価するために教師ポートフォリオを使用した。評価の観点が見えるようになり，ただ漠然と見ているよりも，客観的な評価ができた。

○　他者のアドバイスを取り入れることができたか。

［手立て］

各生徒からもらった意見を集約するまとめ用のプリントを使用した。共通して「よい」という丸が付いていたり，とてもよい意見が寄せられていたりしたら取り上げた。反省点については，改善方法を考えさせた。

○　今日の学習を振り返り，次の学習の見通しをもつことができたか。

［手立て］

授業の最後に，本時の学習を振り返り，中・長期的な活動の前後の変化や学びの履歴を生徒が把握するために学習日記を活用した。教師も，生徒の学習活動の履歴を見ることで，生徒の成長を把握し，見通しをもった。

評価の方法について

◇思考力・判断力

○　学習日記･･･生徒が日々の学習活動を振り返り，次時の学習活動に対する見通しを立てるために学習日記を活用する。学習日記には，日々の学びの履歴が残る。そこで，学習の途中や学習後に生徒や教師が見ることで，変容を把握することができる。

○　ウェビング･･･生徒がどんなことを考えて，活動をするのかという見通しを立て，自分の活動している位置を知るためにウェビングを活用する。分かったことを随時書き込ませることで，生徒が何を学び，何を今後やっていくのかを生徒も教師も把握することができる。

◇技能・表現

○　発表するための準備のプリント･･･発表するためには，何を準備し，どんなことを伝えればよいかということを生徒が考えて書いたものである。これを見ると生徒がどんなことを考え，工夫をし，発表を行ったのか発表会の時間だけで見えないものを見ることができる。

○　発表会のときの評価プリント（生徒用）･･･発表を聞いている生徒が発表内容と方法について評価を行い，発表後すぐに発表者に戻すプリントである。これによって，発表者は，自分の発表内容と方法を客観的に見ることができ，次の活動へと生かすことができる。

○　教師ポートフォリオ･･･評価する観点を事前に決めておき，生徒の発表を見ながら，生徒の発表内容と方法の評価を行う。事前に評価する観点を決め生徒の活動を見ることで，生徒の活動を客観的に見ることができる。

◇総合的な知識

○　学習後の振り返りシート･･･発表会や交流などの学習活動の中で節目となる活動を行った後に，活動の振り返りを行う。このワークシートには，学習活動の振り返りばかりでなく，学習を通して学んだことや学習したことを自分の今後の生活にどのように生かしていくのかも記入している。

考　察

ア　評価の観点や評価規準について

○　育てたい資質や能力から考えた評価規準は，４つの観点で作成したので，各教科の評価と同じように考えて進めることができ，評価がしやすかった。特に，学習をつくり上げる段階で評価規準を設定したことは，どの視点で生徒を見ればよいかが具体的に分かってよかった。

○　どういう場面で，評価プリントや振り返りシートを使って評価規準をどのように見ていくのかを考えることが難しかった。具体的には，評価の観点や評価規準をだれが，何を，どのようにして適切に活動の中に位置付けるかを考えるのが難しかった。

○　評価の観点は，教科の４観点を基盤にして分けたが，育てたい資質や能力が「思考力」「判断力」等に重なる部分があり，明確に分けることができずに苦慮した。

イ　評価の手立てについて

○　チェックリスト等による評価では，発表する生徒の視点や聞いている生徒の視点，また，その活動を支援している教師の視点から生徒の表現方法を多角的に評価した。さらに，「教師ポートフォリオ」と「聞いている生徒のチェックリスト」を一度発表者に戻すことで，発表者は自分のよい点を知ることができるとともに，改善点を考える契機とすることができ，有効であると言える。

○　今回，玩具制作の計画を発表するにあたり，特に「技能・表現」の評価を行った。評価に使用した主なものは，発表する際に使用した自己評価のプリントや生徒の相互評価を行うためのチェックリスト，生徒の発表内容と方法を評価する教師ポートフォリオである。それは，教師側が発表に関する観点を事前に決めておき，友達からもらった意見を集約して，どのように他の人の意見を生かすのかを考えるためのプリント（図１）である。

おもちゃ制作の計画　発表会　まとめ用紙

発表内容について

評価観点	評価
年齢に応じたものになっているか。	Ⓐ・C
丈夫なものになっているか。	Ⓐ・C
安全なものになっているか。	A・Ⓒ
多種な遊び方ができるものか。	A Ⓑ C

自分たちの良い点（上の4の評価の番号を書けて，具体的に発表の中のどの部分が素晴らしいか）

○ぶ[illegible]の手の大きさに合わせている。

改善点（上の2の評価の番号を書けて，どの様に改善するか）

○もうちょっと安全なものをつくる

発表方法について

評価観点	評価
声の大きさや速さは，わかりやすいか。	Ⓐ・C
道具を自分のものとして発表しているか。	A・Ⓒ
絵や図がわかりやすく入っているか。	A・Ⓑ
応用紙の字は見やすいか。（大きさ，字体など）	Ⓐ・C
応用紙での色使いは，見やすいか。	A Ⓑ・C
玩具に工夫があったか。	Ⓐ・C
玩具を作るねらいがわかったか。	A Ⓑ・C
発表時間は良かったか。（時間目安1分，オーバー減）	Ⓐ・C
玩具の役割分担ができていたか。	A・Ⓒ

自分たちの良い点（上の4の評価の番号を書けて，具体的に発表の中のどの部分が素晴らしいか）

改善点（上の2の評価の番号を書けて，どの様に改善するか）

○絵を加えたらがいい。

図１　友達からもらった意見を集約したもの

指導要録等の記入例

【本時の学習から考えられる記入例】

観点②（思考力・判断力）
自分の発表内容と発表方法に関しての意見カードを見ながら，学習活動の振り返りを色分けをして分かりやすいようにした。そして，振り返りによって分かったことや今後の活動の変更点を自分なりにまとめ，次の活動に生かすことができた。

観点③（技能・表現）
自分の言いたいことを人に伝えるため，玩具づくりのねらいを発表の中に入れたり，分かりやすいように色や図を使うなどの工夫が見られた。また，発表会では，堂々と大きな声で発表を行った。さらに，予想される質問についても事前に自分で考えており，受け答えもしっかりしたものであった。

(5)　実践例３（評価の観点―学校で定めた「総合的な学習の時間」の目標，内容に基づく作成―）

鹿島市立鹿島小学校の取組

目指す子ども像

★いろいろな人と主体的にかかわりをもとうとする子ども
★体験を通して，自分で課題を見付け，解決しようとする子ども
★自分が学んだことを自分の生活と結び付け，よりよい生き方について考える子ども

育てたい資質や能力

○自分なりの課題をもつ力
○解決の方法を考え実践する力
○自分の思いを表現する力
○よりよい生き方について考える力

評　価　の　観　点

① 課　題　設　定　力
② 課　題　解　決　力
③ 情　報　発　信　力
④ 自 己 の 生 き 方 を 考 え る

学 校 の 評 価 規 準 （一部抜粋）

観　　点	学　　校　　の　　評　　価　　規　　準　　【高　学　年】
①課題設定力	◆生活の中から必要感をもって，自分に合った課題を設定することができる。 ◆いろいろな人とのふれあいを通して，自分の生き方を考えることができるような課題を設定することができる。
②課題解決力	◆見通しをもち，具体的な解決の方法や計画を立てることができる。 ◆課題に合った人や場所を探し，情報を得ることができる。 ◆人とのかかわりを深めながら，自分の課題を解決することができる。 ◆失敗やつまずきを乗り越えようと，自分なりの工夫をすることができる。
③情報発信力	◆解決や探究の結果を報告書や自分なりの作品に表現することができる。 ◆伝える相手を意識して，適切な方法を選んで表現することができる。
④自己の生き方を考える	◆友達と意見を交換し，相互評価しながら自分自身を振り返ることができる。 ◆活動を振り返ることで，自分自身の成長について考えることができる。 ◆人とのかかわりから人の考えや行動を理解し，自分の生活に取り入れていこうとする。

単 元 名　第５学年　「すこやか教室の子どもたちといっしょに遊ぼう」

単元の評価規準

観　　点	単　　元　　の　　評　　価　　基　　準
①課題設定力	○交流を通して調べたいことやできることを考え，自分に合った課題を設定することができる。 ○すこやか教室の子どもたちとのふれあいを通して，交流を続けていきたいという意欲をもち，自分の生き方を考えることができるような課題を設定することができる。
②課題解決力	○すこやか教室の子どもたちとともに楽しく活動するためにどうしたらよいかを考え，計画的に活動することができる。 ○自分と立場や価値観の違う人とのかかわりを深めながら，課題を追究していくことができる。 ○相手の立場を考えながら，よりよい活動にするために自分なりの工夫をすることができる。
③情報発信力	○すこやか教室の子どもたちと交流して学んだことや，更に追究し考えたことなどを自分なりの方法でまとめることができる。 ○調べたことや感じたことを自分が伝えたい人に，適切な方法で表現することができる。
④自己の生き方を考える	○交流体験や学習活動を振り返り，自分の成長について考えることができる。 ○交流体験や人とのかかわりを通して，学んだことを自分の生活に取り入れていこうとする。

単元の構想　【全３６時間】

※評価の観点の番号はＰ16の評価の観点を示す

過程	学　習　活　動	評価の観点
なかよしになろう	**1　すこやか教室の子どもたちに会いに行こう。（２時間）** ・　すこやか教室の子どもたちと遊んだり，教室の先生や保護者と話をしたりして，今後の活動への希望や期待をもつ。	①
	2　これからどんなことをしたいか話し合おう。（２時間） ・　もっと交流したい。（パーティ・劇や演奏・ピクニック） ・　すこやか教室の新聞を作りたい。	①
友達になろう	**3　すこやか教室でお楽しみ会をしよう。（８時間）** (1)　すこやか教室の先生や保護者に聞いて，子どもたちが喜ぶようなプログラムを作ろう。	①
	(2)　お楽しみ会をしよう。 （プログラムの内容） ア 出し物（劇・歌・合奏・手品・紙芝居） イ 一緒に遊ぶ（ぬり絵・おもちゃ・外遊び・だっこ） 写真１ お楽しみ会の様子	②③
	(3)　活動を振り返って，次の活動の見通しをもつ。	①④
	4　すこやか教室の運動会に参加しよう。（10時間） (1)　小道具や参加賞品の製作を手伝おう。	②
	(2)　自分の係を決めよう。	②
	(3)　県内から集まった障害のある子どもたちと運動会で交流しよう。 写真２ 運動会で交流する子どもたち	②③
	(4)　運動会を終えて思ったことを話し合おう。　（本時）	①②④
友達のためにできることは	**5　すこやか教室の友達を学校に招待しよう。（12時間）** ・　来年から小学生になる友達に，小学校はどんなところかを教えて，子どもたちや保護者に安心してもらおう。 ・　一緒に給食を食べたり，ゲームをしたりしよう。	
	(1)　小学校のみんなにもすこやか教室のことを教えて，一緒に仲良くなってもらうための計画を立てる。 ・　すこやか教室の子どもたちを紹介する新聞を作ろう。 ・　他の学年の人とも遊べるようなプログラムを作ろう。 ・　一緒に給食を食べる許可や手続きをしよう。	①②③
	(2)　学校に招待して楽しく交流する。	②③
	6　活動を振り返ろう（２時間） (1)　活動全体を振り返って，自分の学んだことを話し合おう。	③④

本時の活動と評価の工夫

◆　本時のねらい

これまでの活動を振り返り，次のような力や気持ちをもつことができる。

- すこやか教室の運動会の手伝いはうまくいったのかを確かめる。（②課題解決力）
- すこやか教室への子どもたちに対する自分の考えや気持ちの変化に気付く。（④自己の生き方を考える）
- 今後の活動へ向けての課題をもつ。（①課題設定力）

学　習　活　動	評価の観点と【方法】
1　すこやか教室の運動会を振り返って話し合う。 (1) 運動会の感想 ・○○君と友達になった。 ・担当した友達が喜んでくれて，よかった。	②【ワークシート(2)】
(2) 子どもたちをどう思ったか。 ・だれとでも仲良くなれる。 ・初めは障害があるんだなと思ったけれど，後の方は障害があることも忘れていた。	④【ワークシート(2)】
2　「心のレーダー」を見ながら，これまでの活動全体を振り返り，自分の気持ちの変化に気付く。 ・初め一緒に遊べるか心配だったけれど，今はとても楽しい。 ・うまく遊べるときや遊べないときがあったけれど，自分では前の自分と違って，うまく遊べるようになったと思う。 ・初めて交流に行ったときより，とても仲良しになった。	④【ワークシート(1)】
3　これからどんなことをしたいのか意見を出し合う。 ・もっと交流を続けたい。 ・今度は学校に来てもらおう。	①【ワークシート(2)】

○　自分の課題が解決できたか。

［手立て］

ワークシートの中に，すこやか教室の運動会で子どもたちやお家の人，先生たちを喜ばせようというめあてが達成できたというものがあるかを評価した。

○　交流相手への気持ちに変化があったか。

［手立て］

ワークシートの中に，障害のある子どもたちに対しての思いの変化を振り返ることができているかどうかを評価した。

○　自分の交流に対する考え方の変化に気付いたか。

［手立て］

ワークシート（心のレーダー）の中に，交流を始めたころと比べて，すこやか教室の子どもたちと接するときの自分の気持ちが変わってきたことに気付いたという表現が出てきているかどうかを評価した。

自分自身の変容に気付くことが，自己の生き方を考えることにつながるととらえた。

○　次の課題をもとうとする意欲や見通しをもったか。

［手立て］

ワークシートや児童の発言やつぶやきなどの中に，こだわりをもって次の課題をつくることができているかどうかを評価した。

評価の方法について

○　ワークシート(1)「心のレーダー」

単元全体を通して自分の気持ちを折れ線の変化で表す。連続して書かせることにより，自分の気持ちや考えの変化に気付かせることを目的とする。

- 毎時間ではなく，一つの活動の「はじめ」「なか」「終わり」というように学習の流れの中で節目になるところで記入させる。
- どうしてその点数にしたのか，理由を簡単に書かせ，自分の気持ちを振り返らせる。
- １つの活動が終わった時点で，その活動全体を通した自分の気持ちの変化を振り返らせ，自分の変容について考えさせる。

○　ワークシート(2)

活動の内容に応じた設問により，活動を振り返らせることを目的とする。設問の観点は次の３つである。

ア　活動の感想・期待や不安…その日の活動に対する児童の思いを見る。

イ　交流の相手に対する思い…いろいろな人と共生する力の変容を見る。

ウ　自分自身の変化…問題解決力や自己の生きる力の変容を見る。

考　察

ア　評価の観点や規準について

○　評価の観点や評価規準を根本に据えて児童の活動を見ていくことにより，学習のねらいが教師の中でより明確になった。また，焦点を絞って評価をしていくので，これまで以上に，児童の向上した点やがんばった点を見取ることができたと思う。

○　評価を進めていく中で，評価規準が児童の実態に合っていないと感じることがあった。学校全体の評価規準を単元レベルにおろして，単元の評価基準を設定するときに，児童の実態に合ったものを設定することが重要であると感じた。

○　育てたい資質や能力から評価の観点を作成したことにより，観点や評価規準の設定がスムーズにいったと思う。「自己の生き方を考える」の評価規準については，分かりにくい点があったので，観点の文言や規準の内容について，今後も検討を重ね，よりよいものにしていくことが必要である。

イ　評価の手立てについて

すこやか教室の子どもたちとうまく遊ぶことができていますか。

はじめはどうしていいのか分からなかったけど，今は，すっかり友達です。

○　右は，３回目の交流後のワークシートに，ある児童が書いたものである。この児童は「心のレーダー」を振り返ることにより，以前の自分と今の自分の気持ちの変化に気付いた。「心のレーダー」を通して活動を振り返ることは，自分の変容や成長に気付きやすいといった点で，有効であると考える。

○　人とのふれあいで期待することは，知識や技能面よりも情意面の成長である。したがって，本単元では，知識や技能として身に付けたことよりも，自分の気持ちがどのように変わったかを気付かせることに重点を置いた。学習の節目での振り返りや全体的な活動の流れの振り返りにより，児童は自分自身の変容に気付き，相手の気持ちを大切にすることの大切さなどを学んだと考えている。

○　今回はワークシートを利用することが多かったが，児童同士の話合いや教師との対話をもっと増やしてもよいと感じた。いろいろな評価の在り方があると思うが，「活動そのものの感想」，「相手に対する気持ち」，「児童自身の気持ちの変化」をいつも児童に意識させることが大切ではないかと考える。その意味で，ワークシート等を使っての児童同士の話合いや教師との対話は，有効な手立てであると思う。ワークシートの工夫とその活用の工夫については，更に研究を深めていく必要がある。

指導要録等の記入例

【単元の学習から考えられる記入例】

観点①（課題設定力）
すこやか教室との運動会を終え，次はすこやか教室の子どもたちを学校に招待し，他の学年の人にも友達になってほしいという，更に意識の高い課題をもつことができた。

観点②（課題解決力）
すこやか教室の運動会で他の園から来た子どもたちに初めて出会ったときも，すこやか教室の子どもたちと交流の経験を基に，相手が喜ぶ接し方を自分なりに考えて行動していた。また，すこやか教室の子どもたちとふれあうことの意義と楽しさを知り，昼休みなども自分から進んですこやか教室に出かけ，子どもたちと遊んだり，教室の先生の手伝いをしたりしていた。

観点③（いろいろな人と共生する力）
運動会ですこやか教室の子どもたちを喜ばせようというめあてを達成するため，教室の先生や保護者に尋ねながら準備をし，運動会を成功に導いた。

(6)　実践例４（評価の観点―学校で定めた「総合的な学習の時間」の目標，内容に基づく作成―）

武雄市立川登中学校の取組

目指す子ども像

★自ら学び考え解決し，発信できる生徒

育てたい資質や能力

○問題解決能力
○よりよい生き方について考える力

評　価　の　観　点

① 課題設定力
② コミュニケーション力
③ 判断力（情報活用力）
④ 発信力
⑤ 自己の生き方を考える力

学　校　の　評　価　規　準　（一部抜粋）

観　　点	学　校　の　評　価　規　準
①課題設定力	◆地域の人との活動を通して，自分の生き方を考えることができるような必要性のある課題を設定し，学習計画を立てることができる。
②コミュニケーション力	◆自分の課題を解決するためにいろいろな考えをもった人々とよりよい人間関係をつくることができる。
③判断力（情報活用力）	◆課題解決のために収集した資料を自分の目的に応じて選択，処理することができる。
④発信力	◆友達の考えを認め，自分の考えを深めながら主張したい内容に応じた方法で表現することができる。
⑤自己の生き方を考える力	◆今までの活動を振り返ることで，自分の成長に気付き，自分の生活に生かそうとする。

単 元 名　第２学年　「郷土を知る」－地域での体験活動を通して，地域社会を知ろう－

単元の評価規準

観　　点	単　元　の　評　価　規　準
①課題設定力	○地域での体験活動のときに生じるであろう課題を事前に予想し，自分の力で見通しをもてるような課題を設定し，学習計画を立てることができる。
②コミュニケーション力	○地域の人たちと社会の一員であることを自覚し，相手の気持ちになって質問の仕方や話の聞き方などに留意して，交流することができる。
③判断力（情報活用力）	○地域での体験活動を行う上での諸問題について，自分で解決策を立て，収集した情報を目的に応じて活用し，解決することができる。
④発信力	○事前に学習したことを地域での体験活動に生かし，自分の考えを的確な表現方法で伝え，自分の意志を表現することができる。
⑤自己の生き方を考える力	○自分のテーマを追究する学習から，地域の人たちの生き方にふれることにより，自分の成長に気付き，今からの社会生活の中で，自分がどのように生きていけばよいのかを考えることができる。

単元の構想　【全７０時間】

※評価の観点の欄の番号は，ｐ20の評価の観点を示す

過程	学　習　活　動	評価の観点
	1　学年テーマ「社会と私」について考えを広げて，学習内容を創造する。（12時間）	
㋕	(1)　オリエンテーションを聞き学習のポイントをつかみ，自分の考えをもつ。	①
構	(2)　「地域社会」のウェビングを行い，取り組みたいと思う内容を広げる。	③
え	(3)　アンケート結果を見て他の生徒の考えも知り，自分が取り組む具体的内容を絞る。	①③
づ	(4)　講演を聞き，川登の農業や働くことの意義などについて，自分の考えをもつ。	⑤
く	(5)　「川登にある施設や人など」について，自分が知っていることを確認する。	③
り	(6)　履歴書に自分のことを表し，今までの生き方や物事の考え方などを見つめる。	⑤
	(7)　先輩の話から地域で学習する課題を知り，体験したい学習を具体的に知る。	③
�わ	**2　地域での体験学習を通して，地域社会を知ろう。（12時間）**	
分	(1)　自分の学習目標から，体験したいところなどを選び，承諾を得る。	②
か	(2)　安全について心掛けることを個人で考え，まとめる。	③
れ	(3)　自分が体験したいところへ承諾のお礼に行き，その後体験場所について調べる。	②③
て	(4)　地域での体験学習で「自分のテーマ」を決定する。（本時）	①②③
体	(5)　作成した資料をもって，体験したいところに事前打合せに行く。	②
験	(6)　人生の先輩（保護者）と地域社会について語り合い，人生観について考える。	⑤
学	(7)　自分の学習目標の追究に向け，地域で体験学習を行う。	②③⑤
習	(8)　自分の学習目標や自分の店を作ってみる学習に生かせることについて，地域での体験学習を通して学んだことの報告会を行う。	②③
	3　地域での体験学習を生かして地域社会を知ろう。（20時間）	
㋚	(1)　自分のお店を作ってみる活動の見通しを立てる。	①
中	(2)　お店を開くために必要なことを個人で考え，まとめる。	①③
心	(3)　自分のお店を作るときに必要な仕事内容をまとめる。	③
を	(4)　地域に出て，商品を集めるための活動をする。	②
考	(5)　お店を作ってみる活動における個人の役割を決定する。	③
え	(6)　仕事内容を確認し，商品を集めたり，宣伝活動などを行ったりする。	②④
て	(7)　店長会議で情報交換を行い，今からの活動に必要なことを確認する。	③
ま	(8)　店舗設営・商品の搬入・商品陳列などの開店準備を自分で行う。	③④
と	(9)　川登の産物を紹介し，川登のよさを伝えたり実際に販売したりする。	②
め	(10)　売り上げ処理や後片付けなどの閉店処理を自分で行う。	③
る	(11)　自分の活動を振り返り，自分の学習の様子を自己評価する。	⑤
㋒	**4　これまでの学習を生かして，地域社会を深く知る学習を展開する。（26時間）**	
生	(1)　販売活動で得た売上金を有効に使うための活動を自分で考え，取り組む。	③
み出そう未来に向けてできること	(2)　すべての学習活動を振り返り，自分の興味・関心に応じた内容で学習を展開し，地域社会を深く知る。	①⑤
	(3)　１年間の学習を生かして，自分の考えや意思を的確な表現方法で伝える。	④
	(4)　今後の自分の学習の見通しをもつ。	③⑤

本時の活動と評価の工夫

◆　本時のねらい

- 今までの学習内容を振り返り，自分の体験学習のテーマを決める。（①課題設定力）
- 地域での体験学習への思いを伝え，相手の思いも理解できる。（②コミュニケーション力）
- 他の人のテーマへの思いを知り，自分の思いを再確認し，行動できる。（③判断力）

学　習　活　動	評価の観点と【方法】
1　今までの学習を振り返る。 (1) 地域で体験する学習の３つの目的について，確認する。 (2) キーワードの説明を聞き，自分のテーマのイメージをもつ。 2　自分が調べたり，考え出したりした資料を振り返り，ポイントを探る。 (1)　学びたいことや印象に残ったことをキーワードとして付せん紙に書き，自分が作成した資料の各項目に張る。 (2)　自分の思いの強いものからキーワードのベストテンを選び，学習プリントに付せん紙を張る。 3　地域で体験する学習の目的の一つである自分のテーマを決定する。 (1)　キーワードを出し合い，共通性や重要性を考える。 (2)　キーワードを確認し合うことで，地域で体験する学習での目的の中心となることは何かを考える。 4　自分のテーマと他の人のテーマを比較し検討することで，自分の課題の独自性や共通性を確認する。 (1)　他の人のテーマを参考にし，共通点や特異点を考える。 (2)　他の人のテーマを参考にしながら，自分のものを練り上げる。 (3)　地域で体験する学習の目的意識を高める。	①【対話法，ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵの活用】 ①【対話法】 ②【観察法】 ②【対話法】 ③【観察法】

○ 自分のテーマを決めることができたか。

［手立て］

- 「地域で体験する内容に必要なことは何だろうか」と問い，キーワードを選んだ理由や思いの深さを対話法で尋ねて確かめた。
- 今までのポートフォリオを振り返ることで，重視したいことを付せん紙に記入させ，課題を見付けることができているかを確認した。

○ 自分のテーマを決めることができたか。

［手立て］

「何のために地域で体験をするのか」を問い，体験するところへの思いを対話法で尋ねて確かめた。

○ 自分の思いを伝え，相手の思いも理解できたか。

［手立て］

テーマを創造するために思いが相手に伝わっているかを観察して，必要な指導や支援を行った。

○ 自分の思いを伝え，相手の思いを理解できたか。

［手立て］

自分の思いを相手に伝えることができているかを対話法で尋ねて確かめた。

○ 自分の思いを再確認し，行動できているか。

［手立て］

テーマに対するこだわりがあるかどうかを観察して，必要な指導や支援を行った。

評価の方法について

○「自己評価法」…形成的評価・総括的評価として，学習過程の区切りに行う。振り返りシートや相互評価シートを用いて，生徒理解や生徒の自己評価力を高めるために行う。

○「観　察　法」…学習活動のあらゆる場面で，学習の進め方や学習方法・生徒の様子を理解し，指導や支援に活用するために行う。

○「対　話　法」…特に，課題設定と発信の過程で，生徒の思いを重視し，指導や支援に活用するために行う。

○「ポートフォリオの活用」…１つは，学習プリントや生徒が作成した資料をファイルして，学習を振り返り，まとめ，生かすという学びを自己評価させ，自己学習力の向上をねらって行う。もう１つは，生徒のファイルから生徒の学びの様子を見取り，評価するために行う。留意点としては，「学習時に自分の考えや気付いたこと」等を付せん紙に記入して活用する。

考　察

ア　評価の観点や評価規準について

○　教師間で共通理解をして作成した評価の観点があったので，だれが見ても評価規準が分かり，同じ視点で生徒を見取ることができてよかった。

○　評価規準の絞り込みをする際に，教師がある程度まで要求をするが，活動の中には生徒の思いもあるので，生徒の意欲喚起の面で少し困った。

○　学校で定めた「総合的な学習の時間」の目標，内容に基づいて設定した評価の観点は，学習活動の内容に応じた評価の観点であるため，活動ごとのよい点や進歩状況をその都度，生徒に伝えることができて進めやすかった。

イ　評価の手立てについて

○　生徒と教師が対話する（「なぜ，この学習活動をしているのか」「今後の学習の見通しはどうなっているのか」など，生徒の思いを問う）ことで，生徒の考えや思考の方向性，気持ちなどをつかむことができた。また，生徒自身にも自分の考えを自覚させたり，学習の方向性を考えさせたりする機会となった。

○　ポートフォリオを用いて自己評価をさせることで，ポートフォリオ活用の方法を知らせ，自己理解の能力を育てることにつながった。また，ポートフォリオを介して生徒と教師が対話することで生徒理解をスムーズに行うことができた。

指導要録等の記入例

【単元の学習から考えられる記入例】

観点①（課題設定力）
地域での体験活動に関して，自分のテーマを「笑顔とあいさつでお年寄りの方に安らぎを与える」と設定し，実際の体験ではお年寄りの気持ちをくみ取ることを第一に考えて活動した。また，これまでの学習から福祉に興味・関心を抱き，特に手話の必要性を感じ，「手話をマスターする」というテーマを設定して，自主的に手話教室に通い，技術を体得し，ろう学校との交流時に活躍した。

観点②（コミュニケーション力）
お店を作る活動で，地区に出向いて販売商品の提供をお願いするときに活動の目的や概要・主旨などを相手の方に分かってもらえるように話せた。また，地域の方に話し掛けたり，活動や商品に関する質問に相手の方が理解してもらえるようにしたりして，的確に対応できた。

観点③（判断力）
自分の課題を植木店に問い合わせ，「どのように解決したか」を一つ一つ尋ね，取材活動をがんばった。お店をつくる活動での収益金を地区のために，「木を贈ろう」と考え，積極的に活動した。

観点④（発信力）
自分のテーマを「幼児の心を和ませる寸劇づくり」と設定し，追究する過程において，インターネットや書籍で調べ学習を行い，知識を学んだ後，目的に応じて資料を分析して自分の考えを確立した。そして，保育園へ出向いて，幼児との話し方のポイントを保母から学び，実践化の計画を立てて，友達と協力して練習に励んだ。保育園で実際に上演し，幼児から好評を得て自信をもった。

観点⑤（自己の生き方を考える力）
自分のテーマ「笑顔とあいさつでお年寄りの方に安らぎを与える」を追究する学習から，老人ホームの人たちの生き方にふれ，人の気持ちを思いやることの重要性を感じ，今後の生き方を真剣に考えていた。

6　小・中学校の研究のまとめと今後の課題

(1)　研究のまとめ

「総合的な学習の時間」において，「評価をどのようにするのか」という当面の課題があったが，育てたい資質や能力の設定から評価の観点等を作成するまでの一連の過程を示すことができた。具体的には，文部科学省から示された３つの評価の観点づくりの例示に基づいた作成の仕方や留意点，評価の観点等を踏まえた指導要録等の記入例を示すことができた。さらに，評価の観点や評価規準を活動案の中に位置付けることにより，学習のねらいが教師や子どもたちにとって明確になり，評価の観点や評価規準の設定が，一人一人の子どもを伸ばしていく上で有効であるということが分かった。

評価の方法については，子どもポートフォリオと教師用ポートフォリオを基に面談をする方法や，付せん紙を活用したポートフォリオ評価法等の有効性が明らかになった。

(2)　今後の課題

「総合的な学習の時間」では，カリキュラム評価が非常に重要な役割を占める。本研究でカリキュラム評価の重要性について示してはいるものの，具体的な進め方や実践例等についてはふれていない。今年度は学習評価に重点を置いて進めてきたが，評価の研究の２年次となる来年度は，学校独自のカリキュラムをどのような視点で評価していくのかなど，その進め方や留意点を実践を通して明らかにしていきたい。

《研究委員》

長谷川晃三郎	佐賀県教育センター研修員	平成13年度
直塚　裕典	佐賀県教育センター研修員	平成13年度
徳永　丞	鹿島市立鹿島小学校教諭	平成13年度
松尾　明太	伊万里市立大坪小学校教諭	平成13年度
池田　新	武雄市立川登中学校教諭	平成13年度
塩田　洋己	佐賀市立城西中学校教諭	平成13年度

《参考文献》

- 文部省　『小学校学習指導要領』　平成10年　大蔵省印刷局
- 文部省　『中学校学習指導要領』　平成10年　大蔵省印刷局
- 文部省　『小学校学習指導要領解説　総則編』　平成11年　東京書籍
- 文部省　『中学校学習指導要領解説　総則編』　平成11年　東京書籍
- 文部科学省　『指導要録の改善等についての通知「小学校生徒指導要録の記載に関する事項等」「中学校生徒指導要録の記載に関する事項等」』　平成13年　文部科学省
- 教育課程審議会答申　『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について』　平成12年　教育課程審議会
- 安野　功編　『総合的な学習を創る2001年７月号臨時増刊』　2001年　明治図書
- 安藤　輝次著　『ポートフォリオで総合的な学習を創る』　2001年　図書文化
- 小島 宏・寺崎 千秋編　『総合的な学習の評価計画と評価技法』　2001年　明治図書
- 寺西　和子著　『総合的学習の評価－ポートフォリオ評価の可能性－』　2001年　明治図書
- 熱海　則夫他編者　『平成13年改訂小学校児童新指導要録の記入例と用語例』　2001年　図書文化
- 加藤 幸次・安藤 輝次著　『総合学習のためのポートフォリオ評価』　1999年　黎明書房
- 鈴木　敏恵著　『ポートフォリオで評価革命！―その作り方・最新事例・授業案―』　2000年　学事出版